

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2019年7月19日）

■第3版 第2刷（2019年2月1日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758113557_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第1章					
12	図A	Na ⁺	K ⁺	2箇所訂正	19/03/28
第2章					
22	※2	グルクロン酸 (glucuronic acid)	グルコン酸 (gluconic acid)		19/03/28
第3章					
31	本文 上から11行目	● グリセロリン脂質のリン酸基にエタノールアミンが結合したものを【05】といい、セカンドメッセンジャー(第16章, p195, 図1参照)としても重要な役割を演じている。	● グリセロリン脂質のリン酸基にエタノールアミンが結合したものを【05】といい、生体を構成する主要なリン脂質である。		19/05/23
第4章					
44	演習問題Q4	d. 生体内でタンパク質を構成するすべてのアミノ酸は合成できない。	d. 生体内でタンパク質を構成するアミノ酸は合成できないものもある。		19/04/09
44	演習問題Q5	b. インスリンは、ペプチドで膵臓ランゲルハンス島β細胞で生合成される。 c. 糖タンパク質は、糖が付加して生合成される。	b. インスリンは、生理活性ペプチドとして膵臓ランゲルハンス島β細胞で生合成される。 c. 糖タンパク質は、糖が付加されたあと生合成される。		19/04/09
44	演習問題Q5	e. 生体内ではオルニチンやシトルリンは合成されない。	e. 生体内ではオルニチンやシトルリンは生合成されない。	赤字部分を追加	19/04/09
第6章					
60	演習問題Q5	e. 一本鎖RNAはランダムな立体構造である。	e. 一本鎖RNAはさまざまな立体構造をとる。		19/07/12
第13章					
151	本文 上から6行目	スクシニルCoA, フマル酸などである。	スクシニルCoAなどである。	赤字部分を削除	19/07/19
第15章					
181	本文 上から9行目	【 ¹² 】タンパク質の分解反応を担い【 ¹³ 】に送られ非特異的に分解される。	【 ¹² 】がある。		19/03/28
181	本文 上から12行目	● さらに、細胞内のタンパク質を分解する【 ¹³ 】が知られている。	● さらに、細胞内のタンパク質を分解する【 ¹⁴ 】が知られている。	空欄の番号を変更	19/03/28
181	解答欄	11 小胞体 12 ユビキチン-プロテアソーム系 13 リソソーム 14 オートファジー	11 小胞体 12 ユビキチン-プロテアソーム系 13 オートファジー-リソソーム系		19/03/28
第17章					
217	表4 説明文		本書では、抗原との反応後、症状出現までに“日”の単位を要するものを遅延型、“時間”の単位を要するものを即時型と分類しているが、Ⅱ型・Ⅲ型アレルギーにおいては即時型に分類されない場合もある。	赤字部分(型についての補足事項)を追加	19/02/19
別冊解答					
5	第4章 A5 b, cの解説	× b. インスリンは、プロインスリンで膵臓ランゲルハンス島β細胞で生合成される。 × c. 糖タンパク質の糖は、生合成された後ゴルジ体で糖が付加される。	× b. インスリンは、前駆体ポリペプチド(プロインスリン)として生合成される。 × c. 糖タンパク質は、生合成されたあと糖が付加される。		19/04/09

5	第4章 A5 eの解説	× e. 生体内の尿素回路で、オルニチンやシトルリンは合成される。	× e. 生体内の尿素回路で、オルニチンやシトルリンは <u>生</u> 合成される。	赤字部分を追加	19/04/09
15	第13章 A6 eの解説	× e. <u>NADH+H⁺とNAD⁺ではなくNADPH+H⁺とNADP⁺.</u>	× e. <u>NADH+H⁺を利用しNAD⁺とするのではなく、NAD⁺を利用しNADH+H⁺とする。</u>		19/03/28